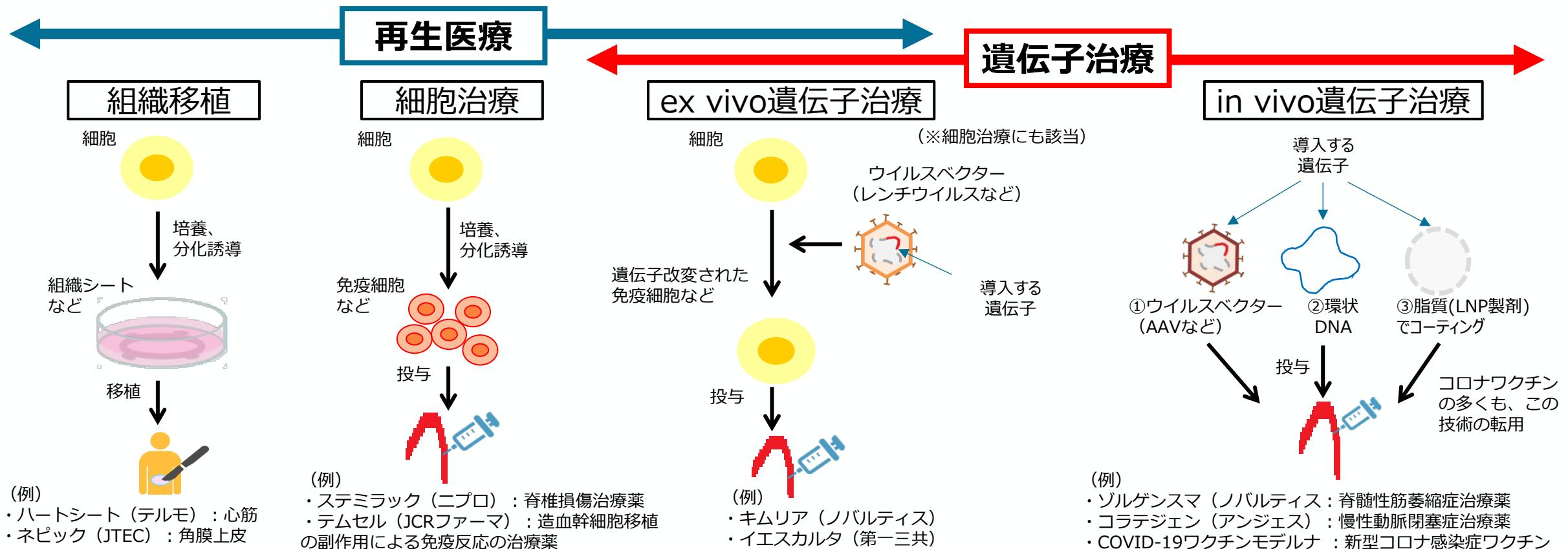


# 再生医療推進のための我が国の産業戦略

令和8年1月30日@福岡  
経済産業省 生物化学産業課  
西尾 翔貴

# 再生・細胞医療・遺伝子治療とは

- **再生医療**：機能障害や機能不全に陥った生体組織・臓器に対して、組織や細胞を使用することで、損なわれた機能の再生をはかるもの。
- **遺伝子治療**：異常な遺伝子を持っているため機能不全に陥っている細胞の欠陥を、外部から導入した正常な遺伝子等により修復・修正することで病気を治療するもの。



# 再生・細胞医療・遺伝子治療の事例

- 再生医療や遺伝子治療の技術は、①一回から数回の治療で効果が継続し、②症状の大幅な改善や根本治療を可能としうる、革新的な治療手段として、大きな期待が寄せられている。

## 再生医療・細胞治療

- これまで治療できなかった患者さんの救命が可能に
  - ✓ 重症熱傷
- 有効な治療法がない患者さんに、新たな治療法の提供
  - ✓ 重症心不全、脊髄損傷、膝関節軟骨欠損

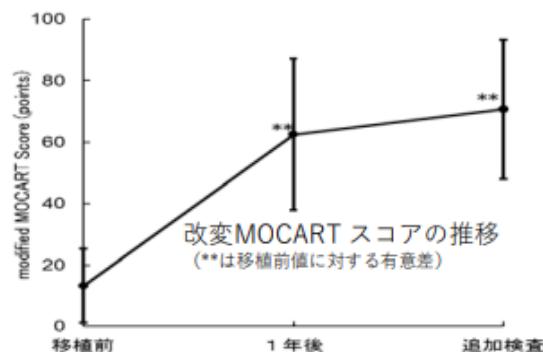
## 遺伝子治療

- 有効な治療法がない患者さんに、新たな治療法の提供
  - ✓ 希少疾病、がん治療
- 少ない投与回数で有効性を示し、患者さんの負担軽減
  - ✓ 脊髄性筋萎縮症

### 組織移植



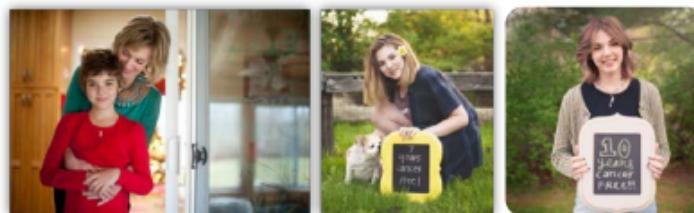
自家培養軟骨の長期臨床成績



### ex vivo 遺伝子治療

The New York Times

In Girl's Last Hope, Altered Immune Cells Beat Leukemia  
少女の最後の希望、免疫細胞の変化が白血病に勝つ



ノバルティス フーマ株式会社提供  
出典 : Emily Whitehead Foundation  
白血病は既存治療法では治療が困難…

遺伝子治療での治療後10年経っても再発無し

### in vivo 遺伝子治療

ゾルゲンスマ投与による幼児SMA患者の回復状況



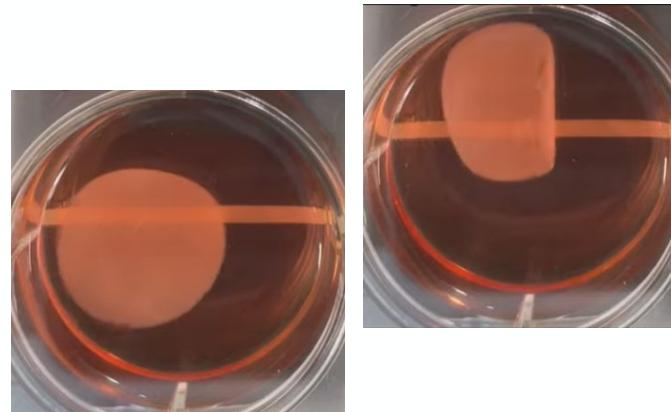
幼児型発症の場合歩くことはおろか平均7ヶ月亡年齢が6~9ヶ月にもかかわらず、歩行器を使用した歩行が可能に

主な症状に嚥下困難があるが、自分でアイスを持って食べることができるよう

出典 : Novartis Zolgensma公式サイト

# (参考) 承認申請中のiPS細胞由来の再生医療等製品

**Cuorips**, which has been developing **human allogeneic iPS cell-derived cardiomyocyte patches** for the treatment of **severe heart failure due to ischemic cardiomyopathy** on April 8, 2025, submitted an application for approval of manufacturing and marketing of regenerative medicine products.



◀拍動するiPS細胞由来の心筋シート

▶関西万博で展示された心筋シートを観るWillem-Alexander国王（蘭）とCuorips社のCTO澤氏



**Sumitomo Pharma and RACTHERA** on August 5, 2025, submitted an application of manufacturing and marketing authorization for **allogeneic iPS cell-derived dopaminergic neural progenitor cells (“raguneprocel”)** for indication of the improvement of motor functions during the off-time period of patients with **advanced Parkinson’s disease**.

Article

nature

## Phase I/II trial of iPS-cell-derived dopaminergic cells for Parkinson’s disease

<https://doi.org/10.1038/s41586-025-08700-0>

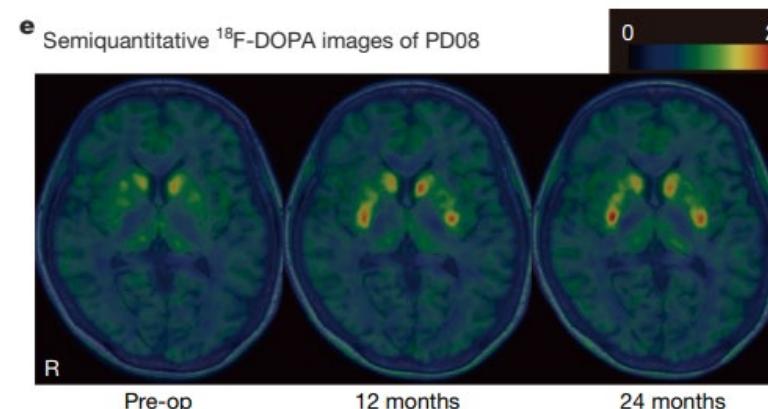
Received: 9 August 2024

Accepted: 24 January 2025

Published online: 16 April 2025

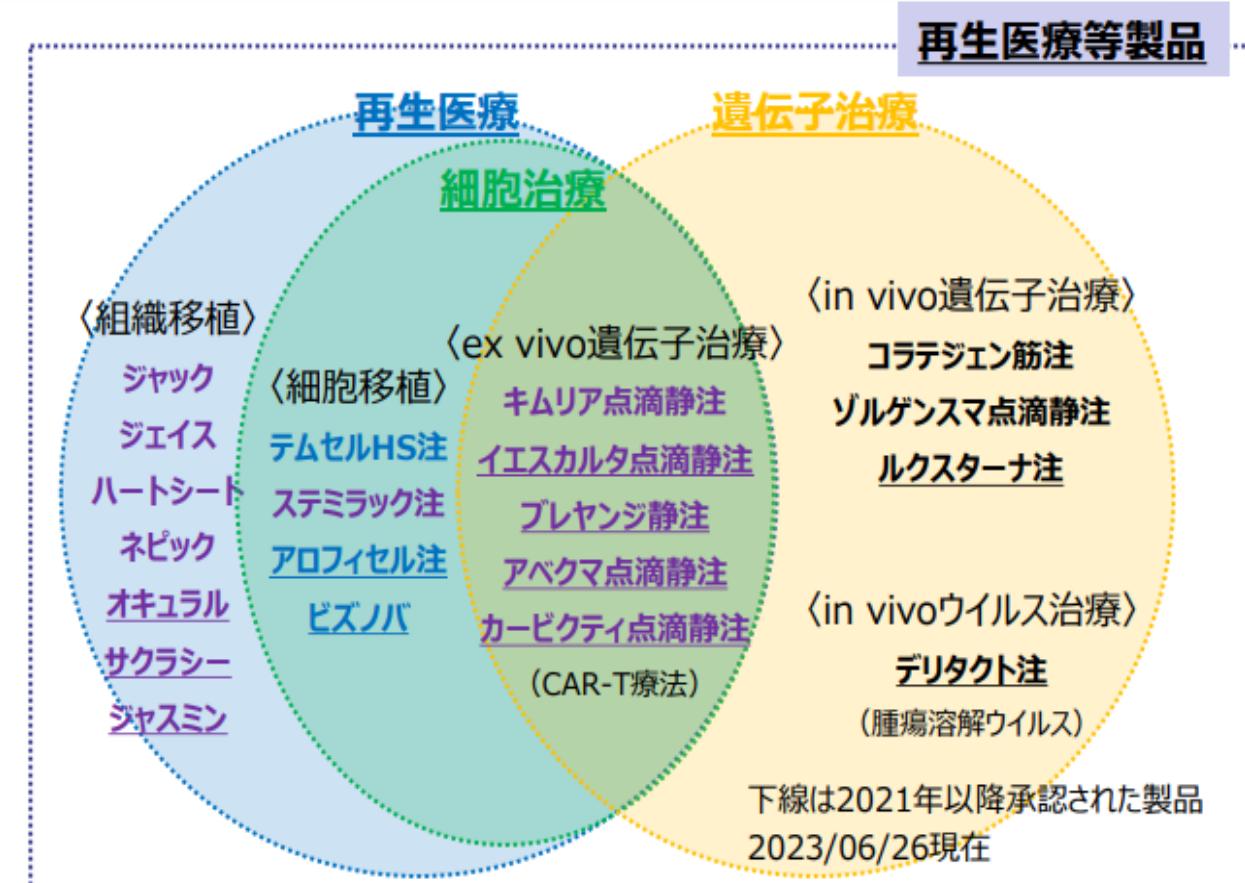
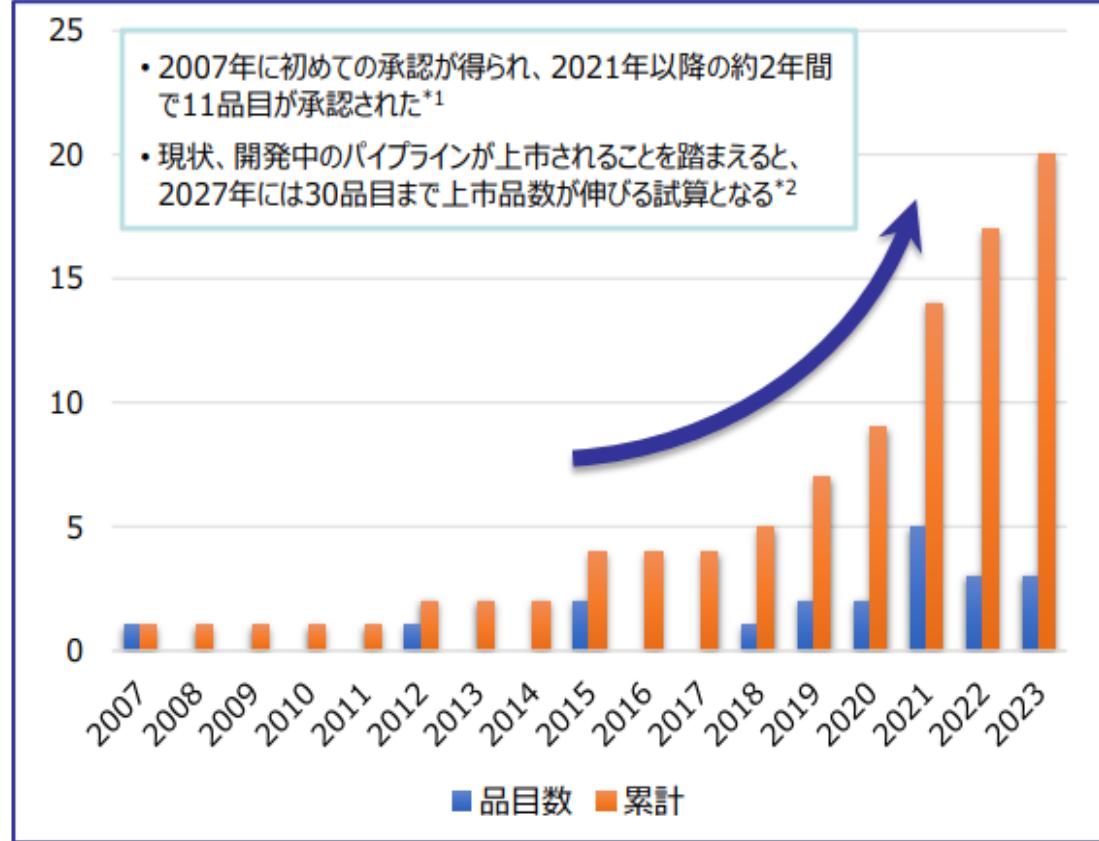
Nobukatsu Sawamoto<sup>1,8</sup>, Daisuke Doi<sup>2,8</sup>, Etsuro Nakanishi<sup>1,8</sup>, Masanori Sawamura<sup>1,8</sup>, Takayuki Kikuchi<sup>3</sup>, Hodaka Yamakado<sup>1</sup>, Yosuke Taruno<sup>1</sup>, Atsushi Shima<sup>1</sup>, Yasutaka Fushimi<sup>4</sup>, Tomohisa Okada<sup>4</sup>, Tetsuhiro Kikuchi<sup>2</sup>, Asuka Morizane<sup>2</sup>, Satoe Hiramatsu<sup>2</sup>, Takayuki Anazawa<sup>5</sup>, Takero Shindo<sup>6</sup>, Kentaro Ueno<sup>7</sup>, Satoshi Morita<sup>7</sup>, Yoshiki Arakawa<sup>3</sup>, Yuji Nakamoto<sup>4</sup>, Susumu Miyamoto<sup>3</sup>, Ryosuke Takahashi<sup>1,8</sup> & Jun Takahashi<sup>1,2</sup>

Source: Website of Cuorips and Sumitomo Pharma (Nature's article)



# 再生・細胞医療・遺伝子治療の国内承認数

- 承認品目は20以上に増え、今後も上市品目が伸びることが期待されている。



\*1 出所：グラフは公表情報を基にFIRMIにて作成

\*2 出所：アーサー・ディ・リトル分析

# 再生・細胞医療・遺伝子治療は市場の急成長が期待される

- 再生・細胞医療・遺伝子治療は高い市場成長率が期待されており、今後数十%以上の年成長率で市場拡大すると試算されている。
- 開発中の品目数が他モダリティと比較しても多く、今後実用化・産業化が進む見込み。

医薬品モダリティ	定義	グローバル市場規模 (\$m)			グローバル開発品数 <sup>*1</sup>
		2021年	2028年	年成長率	
再生・細胞医療	 iPS化以外の遺伝子改変を行っていない細胞を生体に投与する治療法	595	11,038	52%	1,206
Ex vivo遺伝子治療	 遺伝子を改変した細胞を生体に投与する治療法	1,712	25,890	47%	867
In vivo遺伝子治療	 生体に遺伝子を導入/生体の遺伝子を編集する治療法 本調査においては腫瘍溶解性ウイルスを除く	1,438	26,672	52%	811
核酸医薬	 数十bp程度の塩基長のDNAもしくはRNAを生体に投与し、タンパク質の発現/機能阻害を行う治療法	3,329	23,220	32%	559
mRNA医薬 <sup>*2</sup>	 mRNAを生体に投与することで、コードされたタンパク質を発現させる治療法	0 (58,016)	4,036 (18,199)	N/A (-15%)	150 (190)
抗体医薬	 抗体を生体に投与することで、中和、アゴニスト、アンタゴニストなどとして作用させる治療法	189,393	322,037	8%	3,072
ADC <sup>*3</sup>	 抗体にリンカーを介して低分子物質を結合させ、標的細胞への低分子の送達性を向上させたもの	5,320	26,754	26%	546
ペプチド医薬 <sup>*4</sup>	 アミノ酸数十程度の分子量のペプチドを生体に投与し生理活性物質として作用させる治療法	45,784	74,261	7%	346
タンパク質医薬 <sup>*4</sup>	 タンパク質を生体に投与し、生理活性物質として作用させる治療法	58,869	72,148	3%	1,036
病原体生物等 <sup>*2</sup>	 繼代培養や化学処理等により弱毒化又は無毒化した病原体を投与することで、免疫記憶を誘導する治療法	14,945 (34,048)	20,810 (21,878)	5% (-6%)	133 (160)
有機化合物	 薬理作用を持つ化合物を生体に投与する治療法（低分子医薬など）	401,975	581,242	5%	11,856

\*1 前臨床以降の開発品を品目ごとにカウント \*2 mRNA医薬と病原体生物等はCOVID-19関連の品目を除く。COVID-19関連の品目を含む値は参考としてカッコ内に記載した

\*3 ADC: Antibody-Drug Conjugate \*4 本調査においてはワクチンを除く

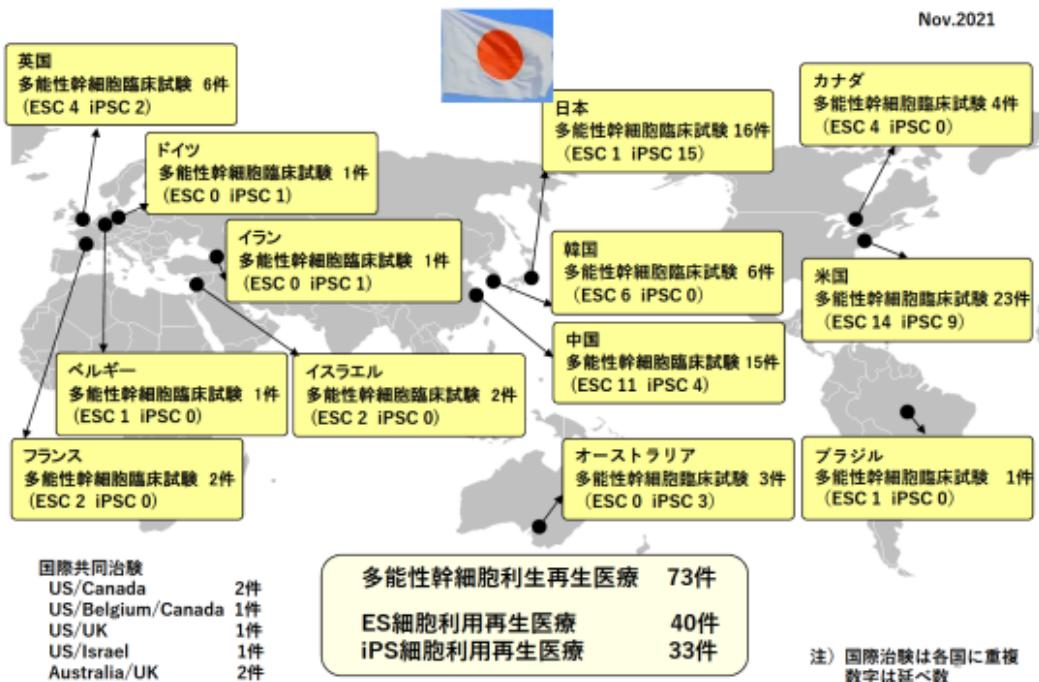
出所 : Evaluate Pharma (検索月 : 2022年10月) よりアーサー・ディ・リトル作成

# (参考) 再生医療分野での日本の強み

- 2012年のノーベル賞受賞に始まり、日本は再生医療の研究開発を主導し続けてきている。
  - 特に、**細胞分野（iPS細胞）での技術優位性（知財・研究開発など）が高い。**

## ① iPS細胞分野の実用化動向

- 先端技術であり未だ承認販売に至った製品はないが、臨床試験実施数は日本がトップ。



出典：[https://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n2296\\_01.pdf](https://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n2296_01.pdf)

## ② 組織幹細胞移植分野

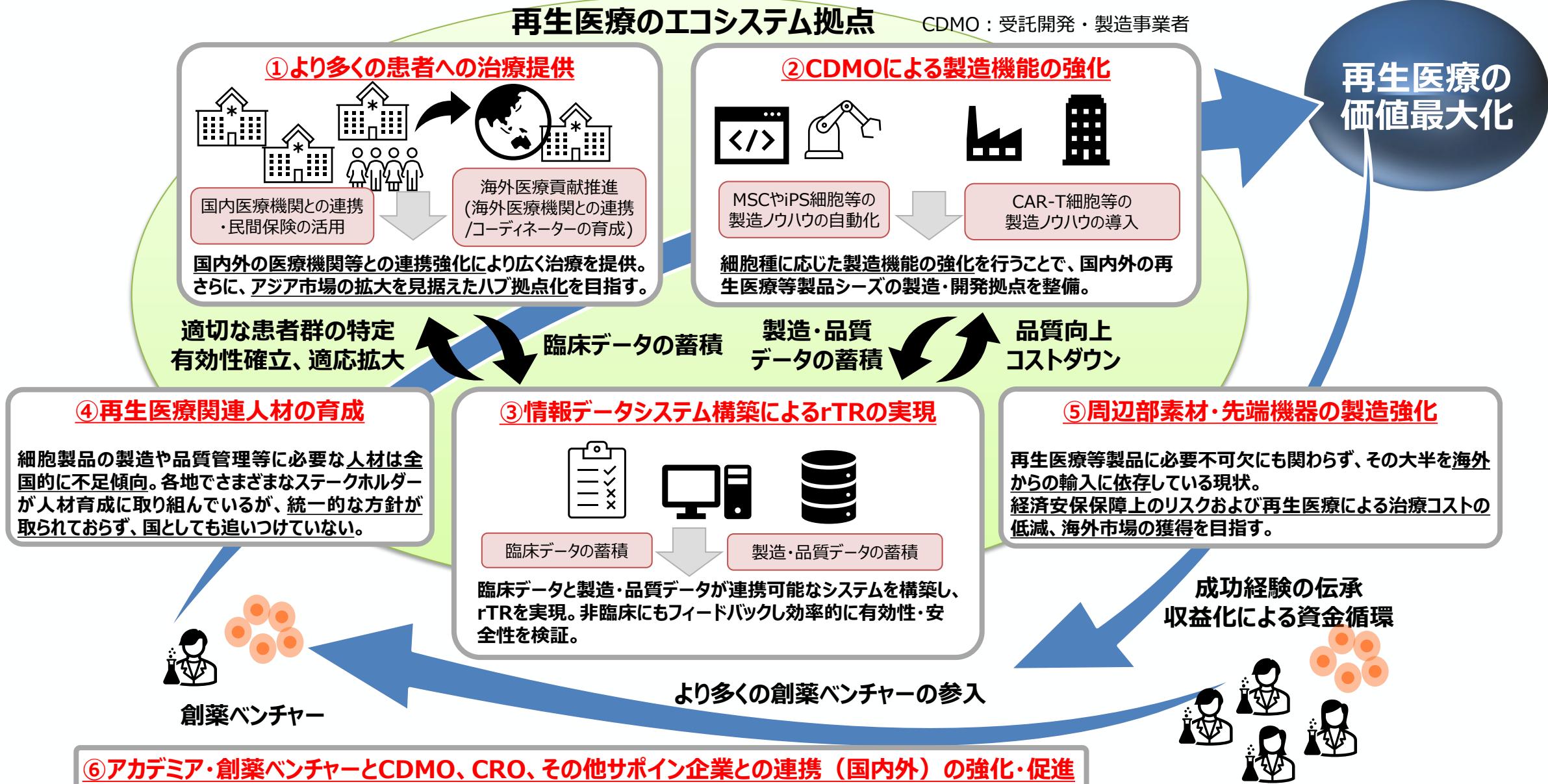
- 世界で上市されている臓器・細胞移植製品<sup>※1</sup>の多くが日本発製品。（6／9製品）

具体的な細胞種	製品名	対象疾患	開発企業	開発段階
間葉系幹細胞（自家）	ステミラック	外傷性脊髄損傷	ニプロ	条件付承認（2018）：日本
間葉系幹細胞（他家）	テムセル	移植片対宿主病	Osiris Therapeutics 社	上市（2012）：米国
			JCR フーマ	上市（2015）：日本
間葉系幹細胞（他家）	Grafix	糖尿病性足潰瘍	Osiris Therapeutics 社	上市（2011）：米国
軟骨細胞（自家）	Carticel	軟骨損傷	Vericel 社	上市（1997）：米国
	MACI			上市（2012）：米国
軟骨細胞（自家）	ジャック	外傷性軟骨欠損症 離脱性骨軟骨炎	ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング	上市（2012）：日本
表皮細胞シート（自家）	Epicel	熱傷	Vericel 社	上市（2007）：米国
表皮細胞シート（自家）	ジェイス	重症熱傷／先天性 巨大色素性母斑等	ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング	上市（2007）：日本
骨格筋芽細胞シート（自家）	ハートシート	重症心不全	テルモ	上市（2007）：日本
角膜上皮細胞シート（自家）	ネピック	角膜上皮幹細胞疲 弊症	ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング	上市（2020）：日本 <sup>(※2)</sup>

(※1) 免疫細胞を除く

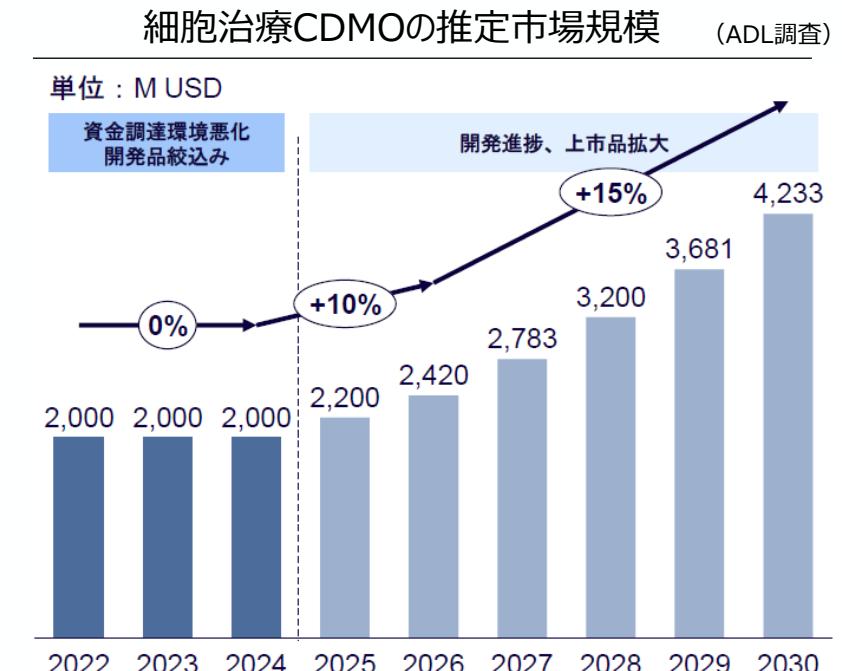
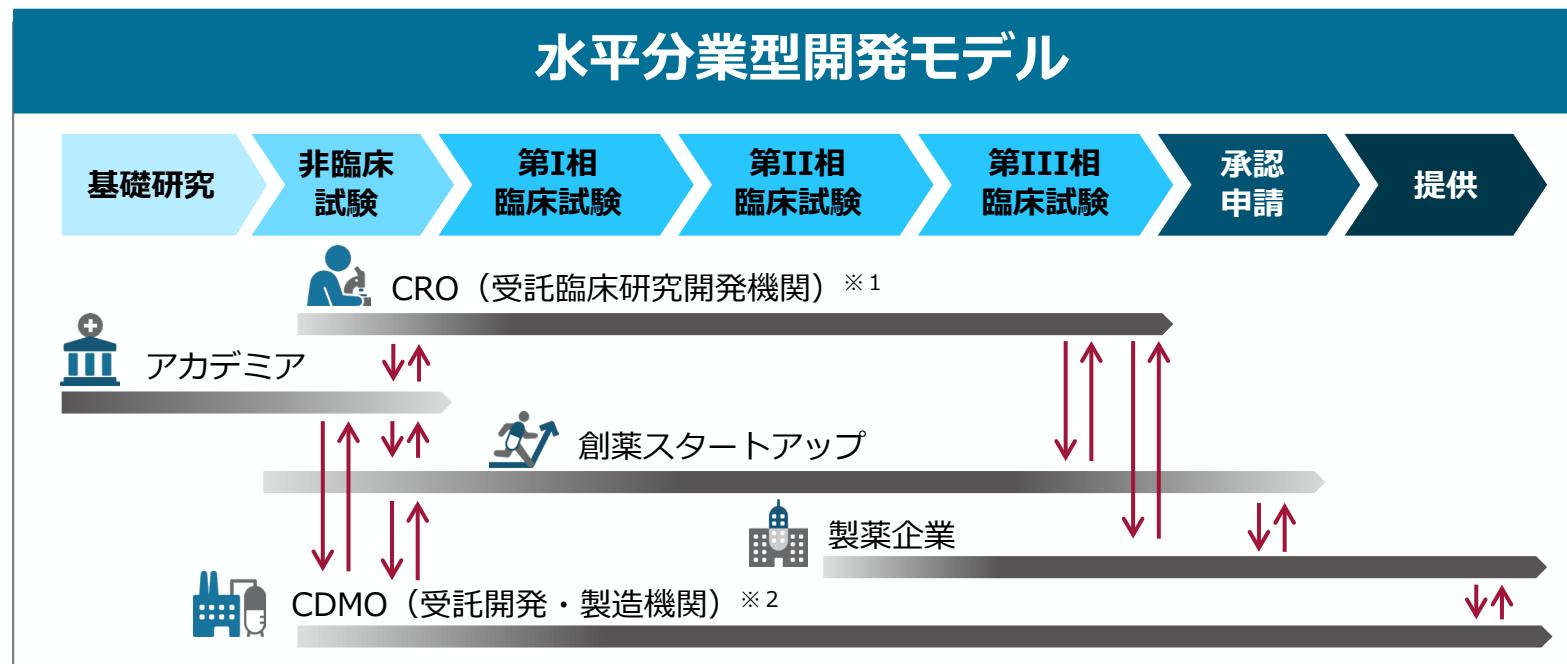
(※1) 免疫細胞を除く (※2) 上市して間もないため、2021年時点では市場未形成  
出典：[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/saisei\\_saibou\\_idensi/dai5/sankou1.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/saisei_saibou_idensi/dai5/sankou1.pdf)

# 再生医療の社会実装の加速化に向けたビジョン（イメージ）



# 産業構造の変革：製造の分業化と製造力の強化

- 再生医療等製品を含むバイオ医薬品は特殊な製造技術・ノウハウが必要で、従来に比べ開発・製造コストが高い。創薬開発の担い手となつたベンチャー企業が自ら大規模施設を保有することは難しく、開発を進めていくには外部事業者との連携が必要。
- バイオ医薬品の分野では製造・開発をCDMOやCROに委託する水平分業が国際的に進展。
- 再生医療産業の発展に向けては、医療安全保障等の観点からのCDMOの育成が重要。



※1 CRO（受託臨床研究開発機関）：医薬品開発の非臨床試験におけるデータ収集、臨床試験の代行などを請け負う（研究の受託）

※2 CDMO（受託開発・製造機関）：医薬品の製造プロセス開発や製造を請け負う（製造の受託）

# 再生医療の産業化に向けた課題と研究開発等の促進

- 再生医療の産業化において、患者が限定されるため有効性の検証が困難なこと、また適切な自動化や量産ができずに採算がとれない場合が多いことが課題。
- 今後、より多くの再生医療等製品の有効性を確立し、再生医療産業の価値を最大化していくことが求められる。



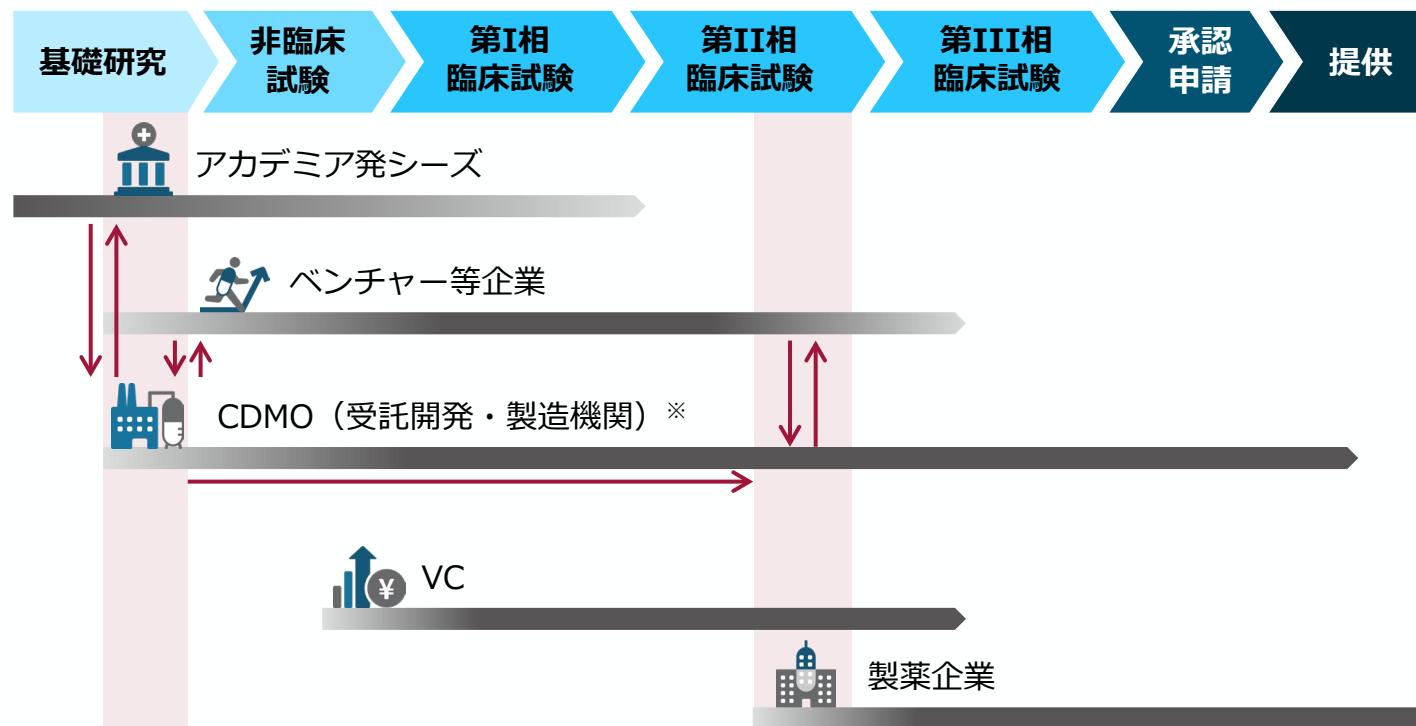
# 産業化促進事業（製造プロセス開発枠）

R8公募中

「再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業」の内数  
令和7年度当初予算額：37.8億円の内数

- 創薬開発の主体となる企業（ベンチャー等含む）が有する、市場性が期待できる再生医療等製品シーズの産業化を加速することを目標とする。
- 臨床前段階からCDMOと連携し、商用製造を見据えた製造プロセス開発を支援する。

## 上市までの製造プロセス開発における課題



\* CDMO (受託開発・製造機関) : 医薬品の製造プロセス開発や製造を請け負う（製造の受託）

### ① 開発初期の製造プロセス開発（支援対象）

- シーズの産業化を加速させるためには、非臨床試験の前からCDMOと連携し、規制に対応するための製法開発やスケールアップを想定した製法開発を実施しておく必要がある。
- 本事業では、こうした製造プロセス開発費用を含め、非臨床試験を開始するために必要な研究を支援。

### ② 臨床結果を反映した製法の改善

- 非臨床試験～臨床試験の結果をもとに製法を改善することで、CDMOに知見が蓄積され、製造コストの削減・開発期間の短縮につながる。

### ③ VC・製薬企業からの投資

- VCや製薬企業等の支援を得るには、海外での薬事承認・事業化も見据えた製造工程の設計や、非臨床試験での適切なデータ取得等が必要。

# (参考) 再生医療等製品CDMO企業リスト



- 創薬開発の主体となるアカデミアや創薬ベンチャーが開発初期の段階からCDMOとマッチングし、製品化を見据えた製造プロセス開発を行えるよう、**再生医療イノベーションフォーラム（FIRM）とともにCDMOリストの作成を実施**（2025年4月公開、2ヶ月ごと更新）。英語版も2025年9月からリリース。

一般公開トップ | COMO企業リスト

## 再生医療等製品CDMO企業リスト

このCDMOリストは、再生・細胞医療・遺伝子治療の領域で躍進となっている製造分野について、創薬開発の主体となるアカデミアや創薬ベンチャーとCDMOのマッチングを促進することによって、国内に製造プロセス開発のノウハウを蓄積し、ひいては影響力の強化を目指すため、FIRGが経済産業省と協力して作られたものです。

本リストの掲載企業は、

国内に法人登記があり、国内に製造施設があるCDMO企業（細  
うち）、  
①「再生医療等製品製造許可あるいは特定細胞加工物製造許可  
②「再生医療等製品製造許可あるいは特定細胞加工物製造許可  
として公表しているCDMO企業」  
としています。

もし上記の条件を満たすCDMO企業で、リストへの登録をご希  
望する場合は、2024年12月～2025年3月

第十一章：如何在工作中运用批判性思维

調査方法：調査会社によるアンケート。なお、各社種がアンケート

また、本リストは、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（生医工、遺伝子治療の产业化に向けた基盤技術開発事業（再生を目指した創薬シーズに対する製造プロセス開発支援）などの		H
		S
日本に再生医療等製品販売実績を持つCDMO企業	細胞医薬 (ex vivo)審査法を含む)	ワイ ペク (ANELI
株式会社ARCALIS		エ ン シ ク

各CDMOのモダリティ別受託実績や、承認申請サポートの経験、対応可能な分析法、品質保証体制等を網羅的に記載。



# (参考) ステップアップリスト

- 再生・細胞・遺伝子治療の実用化に向け、製造ギャップの解消とCDMO連携を支援するツールとして、ステップアップリストを策定。「ヒト細胞加工物製品」、「ex vivo 遺伝子治療」、「in vivo 遺伝子治療」用の3シートを、以下2ステップで用意/準備中。
- Step 1 (開発初期用 : 11/10公開)** : 対象疾患、特許、生物由来原料基準、カルタヘナ対応、規格試験、PMDA相談など基本要件を確認する項目
- Step 2 (開発中後期用 : 準備中) : GCTP調査要領と関連する項目を含め、プロジェクト戦略、法的・契約事項、技術情報など、CDMO移管に必要な詳細な項目

## 製造開発プロセス



ステップアップリスト

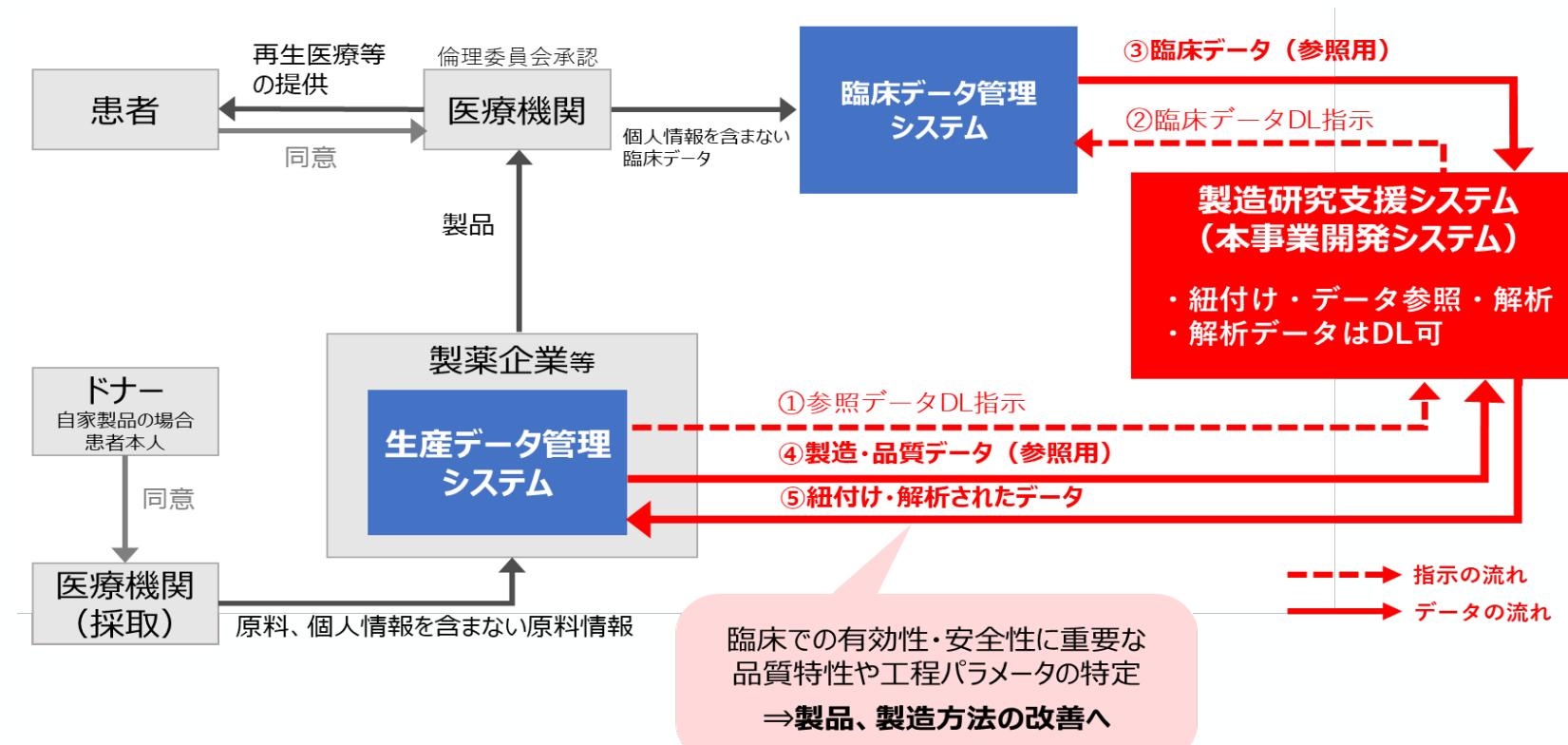
# 産業化促進事業

## (製造研究支援システムの開発と実証)

R8公募予定

「再生医療・遺伝子治療の産業化に  
向けた基盤技術開発事業」の内数  
令和7年度当初予算額：37.8億円の内数

- 製品の製造・品質データ（生産データ管理システム）と臨床データ（臨床データ管理システム）を統合し、Quality by Designを踏まえたシステム開発についても検討中。
- 製造・臨床データを連結させることで製造工程・投与方法の改善を行うほか、これらのデータを基礎研究に反映し、より有効性の高い治療法を開発するrTRの実現を目指す。



# 次世代製造技術開発事業

「再生医療・遺伝子治療の产业化に向けた基盤技術開発事業」の内数  
令和7年度当初予算額：37.8億円の内数

- 製造プロセスの自動化や現行の製造・分析機器の自動化へ向けた開発・改良を行い、製造関連機器の連結等を含む汎用的な自動化プラットフォームの開発を目指す。
- 国際的に通用する汎用的なデータ形式、データ管理システム等を検討し、それらの製造・分析機器等への反映を目指す。



Lonza  
「Coccon」



Miltenyi Biotech  
「CliniMACS Prodigy」



HITACHI  
「iACE ACC-200」



RBI  
「まほろ」



SINFONIA  
「CellQualia」



PHCbi  
「LiCellGrow」



自動化プラットフォームの一例

- 連結装置の制御
- 分析機器からのデータ自動取得/自動解析
- 取得データから実験計画や製造法の自動設定など

# 再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援事業

国庫債務負担行為  
総額383億円

令和6年度補正予算額：100億円  
令和7年度補正予算額：158億円

- 再生・細胞医療・遺伝子治療製品を円滑に製造できる能力を確保するため、**CDMO（受託開発・製造事業者）の国内拠点の整備や製造人材の育成を促進**する。
- 主に国内の創薬シーズに関して、**効率的かつ安定的な製造プロセス開発**を促し、我が国の創薬力強化・受託製造産業の輸出産業化を目指す。
- 令和7年7月に13社を採択事業者として決定。

## 通常枠

- S-RACMO株式会社
- 株式会社サイト-ファクト
- 株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング
- JCRファーマ株式会社
- 株式会社ニコン・セル・イノベーション
- ミナリスアドバンストセラピーズ株式会社  
(旧Minaris Regenerative Medicine株式会社)

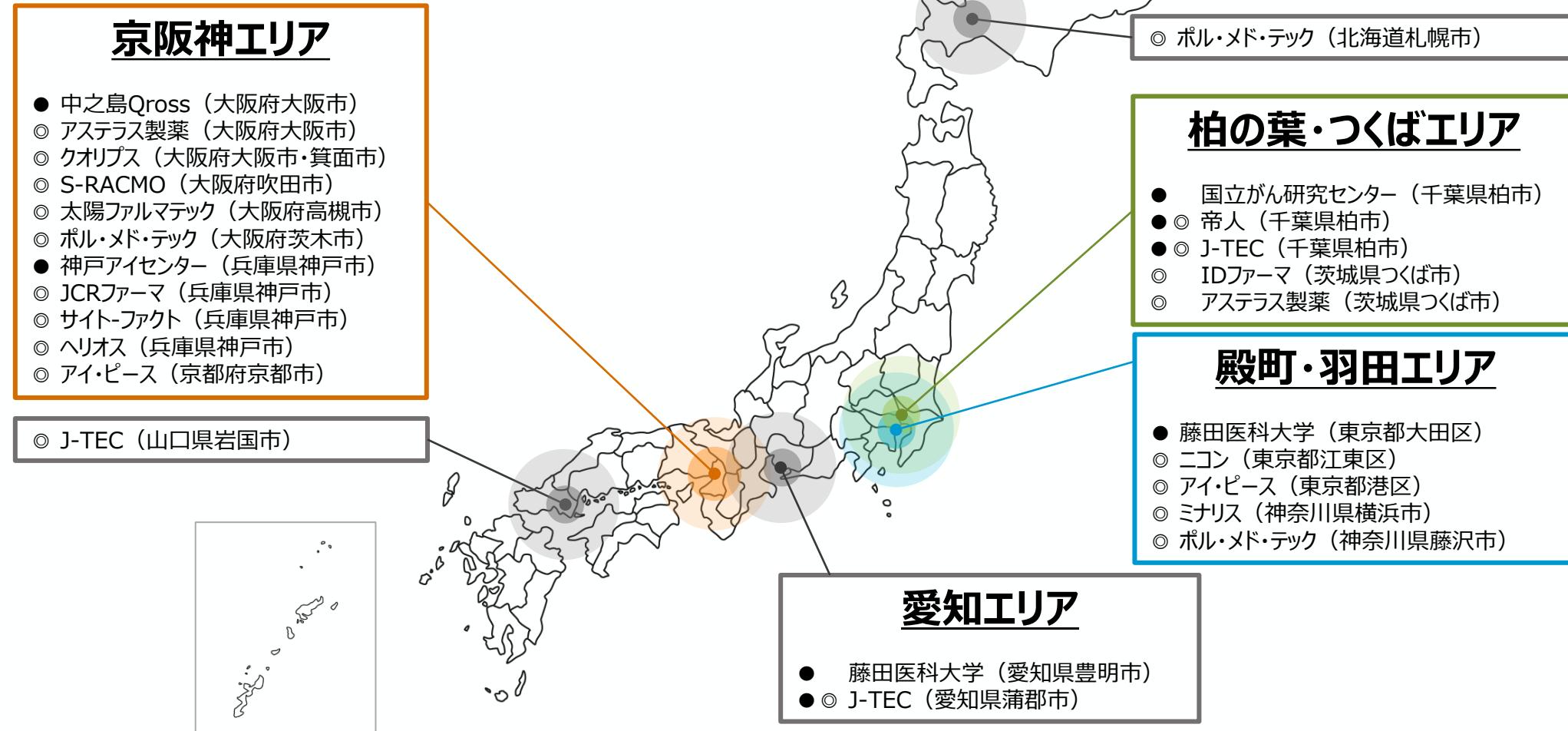
## 新技術導入促進枠

- 株式会社IDファーマ
- アイ・ピース株式会社
- アステラス製薬株式会社
- クオリップス株式会社
- 太陽ファルマテック株式会社
- 株式会社ヘリオス
- 株式会社ポル・メド・テック



# (参考) 経産省予算による再生医療拠点の整備状況

- 再生・細胞医療・遺伝子治療の社会実装に向けた環境整備事業 (R4補正予算: 51億円)
- ◎ 再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援 (R6補正予算: 383億円)



# 創薬ベンチャーエコシステム事業

公募継続

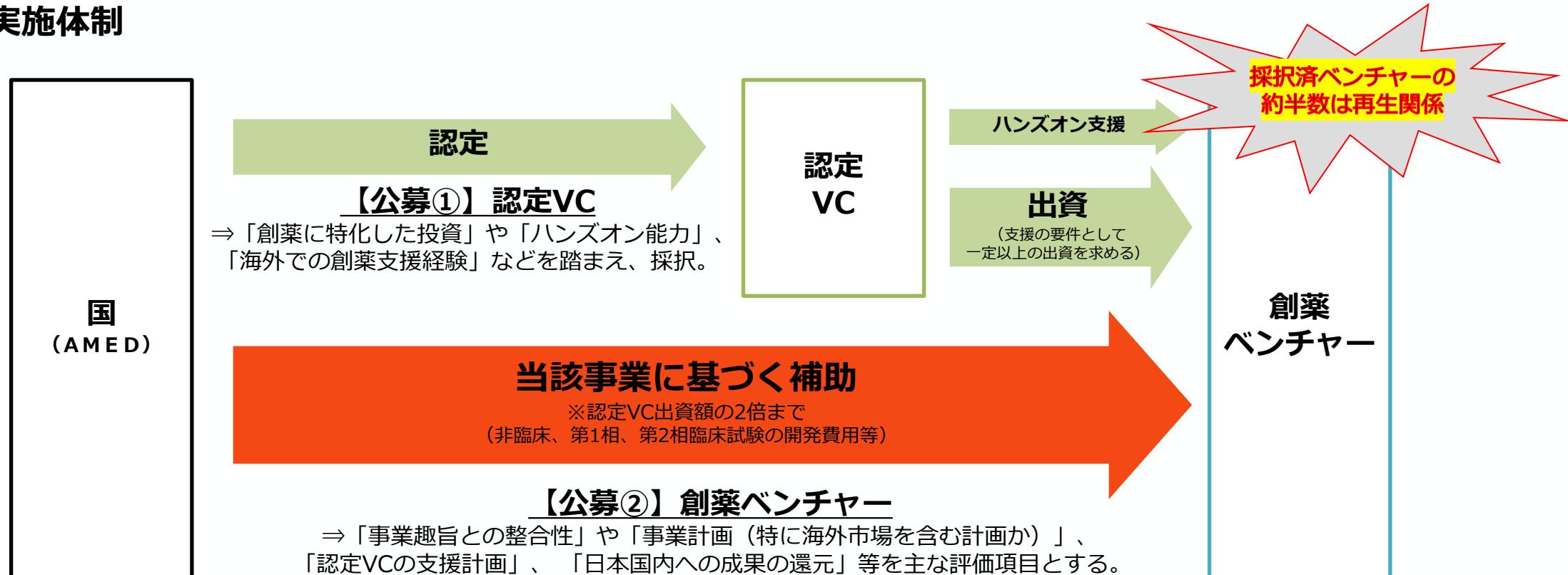
基金総額：3,500億円

令和3年度補正予算額： 500億円

令和4年度補正予算額：3,000億円

- 創薬ベンチャーが行う非臨床試験、第1相臨床試験、第2相臨床試験を対象とする。
- AMEDが認定したVCによる出資額の2倍相当の治験費用を支援する。

## 事業実施体制



# (参考) 創薬ベンチャーエコシステム事業の認定VC



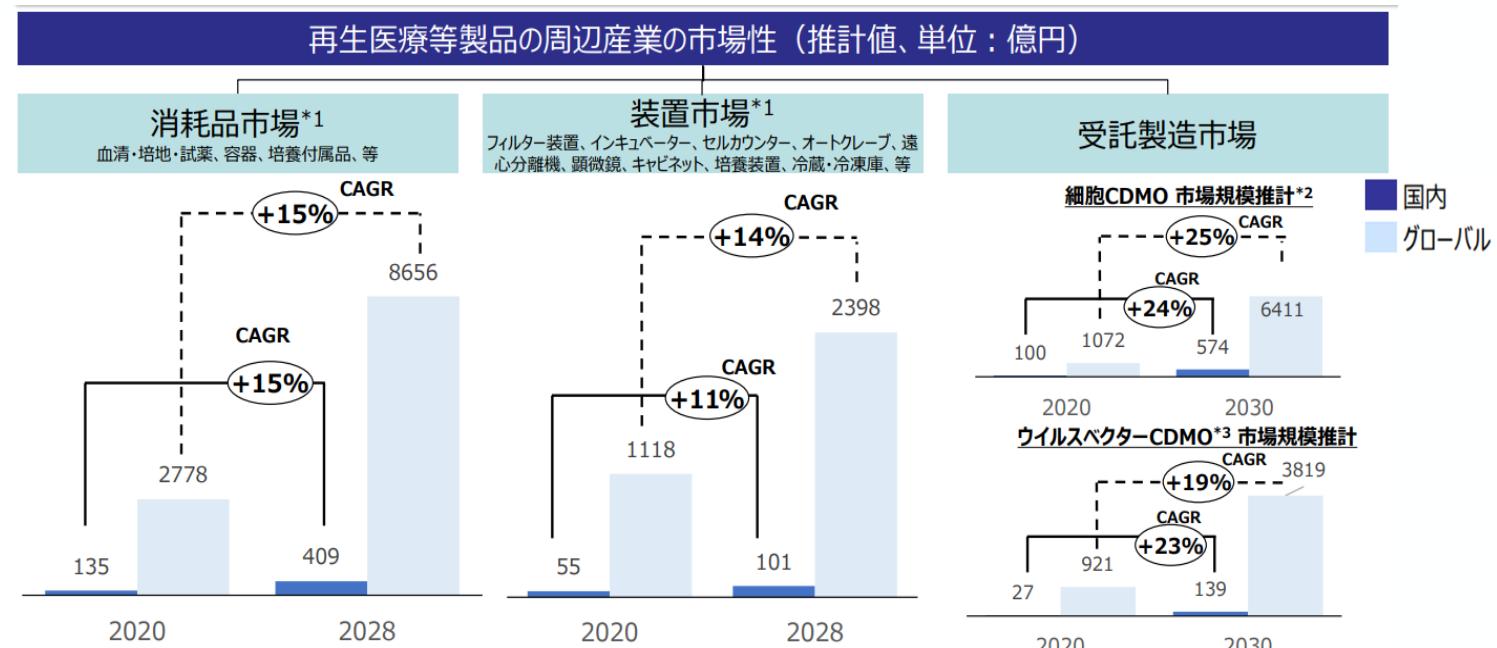
# 再生医療・遺伝子治療の产业化に向けた基盤技術開発事業

令和8年度概算要求額40億円（令和7年度39億円）

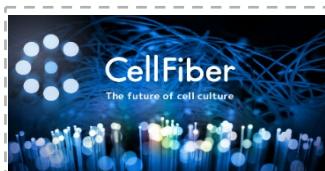
事業目的・概要	事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）	成果目標・事業期間
<p><b>事業目的</b></p> <p>再生医療や遺伝子治療の技術は、臨床現場における新たな治療の選択肢や創薬ツールとして期待され、市場の急速な拡大が予想されている。本事業では、再生・細胞医療・遺伝子治療の产业化の促進に向け、ヒト細胞加工製品や、遺伝子治療に用いる治療用ベクターおよび遺伝子変換細胞等の安定的かつ効率的な製造技術等を開発するとともに、再生医療技術を応用した新薬創出を加速する。これらにより、我が国発の革新的医療の社会実装を図り、拡大する世界の医療・医薬品市場の取込みによる経済成長への貢献と、国民が健康な生活及び長寿を享受することの出来る社会（健康長寿社会）の実現を目指す。</p> <p><b>事業概要</b></p> <p>再生医療・遺伝子治療分野の产业化を促進するため、以下の取組みを支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 遺伝子治療に用いる安定的かつ効率的なウイルスベクターおよび遺伝子変換細胞の製造・評価技術を開発する。</li><li>② 再生医療技術を応用し、様々な臓器の細胞を活用した、医薬品の安全性等を評価するための創薬支援ツールを開発する。</li><li>③ 再生医療・遺伝子治療の製品開発を目指す企業等の製造プロセス構築や評価手法の開発および新たに革新的な製造装置や原材料細胞等の開発を支援する。</li><li>④ 再生医療・遺伝子治療製品の安定的かつ効率的な商用製造に向け、製造、品質分析に汎用可能な自動化装置の開発およびそれらのデータ形式の汎用化を支援する。</li></ul>	<p>事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）</p> <pre>graph LR; 国[国] -- 補助(定額) --&gt; AMED["国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)"]; AMED -- 委託 --&gt; 民間企業等[民間企業等]</pre> <p>※一部（③④の民間事業者等による開発）は補助事業として実施。</p> <pre>graph TD; A[原料になる細胞（組織）] --&gt; B[ヒト細胞加工製品]; A --&gt; C[遺伝子治療]; B --&gt; D[培養]; D --&gt; E[分注・凍結]; E --&gt; F[輸送]; F --&gt; G[細胞製剤]; C --&gt; H[プラスミド]; H --&gt; I[遺伝子細胞への導入]; I --&gt; J[培養・発現]; J --&gt; K[精製]; K --&gt; L[品質評価]; L --&gt; M[治療用ベクター];</pre>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 令和10年度までに、本事業で支援した再生医療・遺伝子治療の開発品のうち治験終了件数12件</li><li>• 令和15年度までに、製造工程内に本事業で開発したコア技術を組み込んだ上で提出された治験届件数3件等を目指す。</li></ul>

# (参考) 周辺産業の市場性への期待

- 再生医療等製品の市場成長を受け、装置市場だけでも2400億円規模のグローバル市場になるなど、今後主要な周辺製造産業も大きく成長する見込み。
- 周辺産業（製造装置や原材料細胞等）の実用化に向けた研究開発を、ベンチャー事業者等による製法・評価法開発・関連する基盤製造技術開発の一環として支援（令和8年度）。



**株式会社サイフューズ**  
3Dプリンターを用いた細胞製造を行う機器の開発を実施。オルガノイドなど組織の製造の自動化にも取り組む。



**株式会社セルファイバ**  
細胞培養をチューブ内で行うことにより増殖率の上げより効率的かつ低成本な細胞培養が可能になる技術を開発。

# 令和8年度与党税制改正大綱（設備投資／研究開発）

## 第一 令和8年度税制改正の基本的考え方

(中略)

また「経済の足を引っ張る財政」であってはならない。財政に対する信認も確保しなければならない。そのためには「**恒久政策には安定財源**」の思想を堅持しつつ、**予算の単年度主義に過度にとらわれる硬直的な税制ではなく、複数年の財政均衡**について一步を踏み出す時に来ている。

(中略)

「強い経済」を実現するために、**大胆な設備投資促進税制を創設**し、**高付加価値化型の設備投資を強力に後押し**する。他方、設備投資時のキャッシュフローを支援するとともに、**設備投資後の収益で財政を支える償却制度を積極的に活用**することで**複数年の財政均衡に配慮した制度**とした。

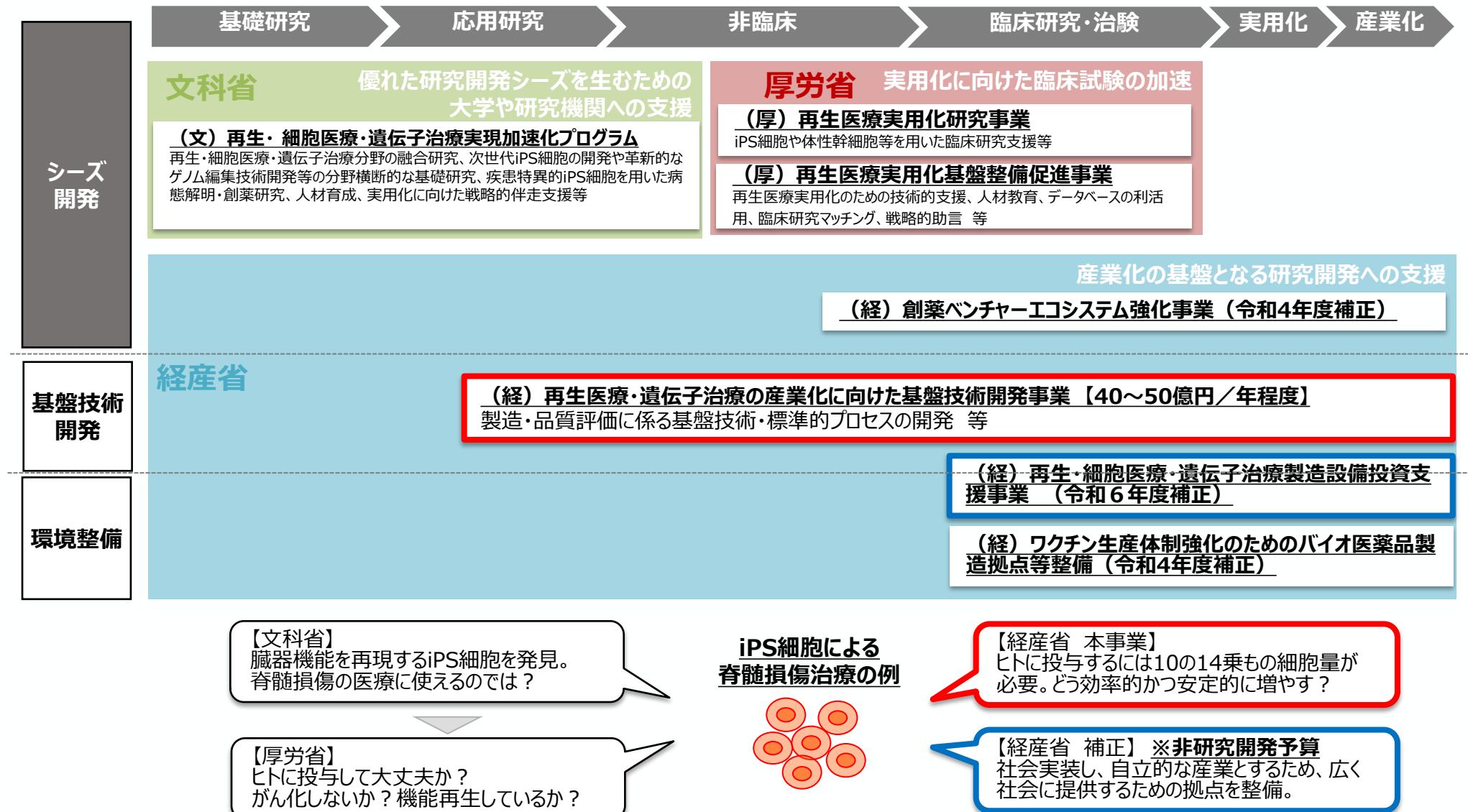
(中略)

「強い経済」とともに「世界で輝く日本」の実現に向けて、**A I ・量子・バイオ等の戦略技術分野の研究開発を促進する観点から、研究開発税制について「戦略技術領域型」を創設**するとともに、**国内の研究人材や研究開発拠点を強化する観点から必要な見直し**を行う。また、国際的な租税回避を防止し、企業間の公平な競争環境を整備する観点から、わが国が主導してきた国際課税のB E P Sプロジェクトについても積極的に進めていかなければならない。

**租税特別措置等**については、**的を絞り、メリハリを明確にすることでインセンティブを大胆に強化**する。また、**賃上げや設備投資に積極的ではない企業**については**租税特別措置の適用除外とする制度の強化・拡充を断行**し、**積極的に挑戦する企業**を集中的に支援する制度に変えていく。**今後更なる適用拡大についても検討**を行う。

他方で、**累次の法人税率引下げ**によって、**企業の利益が設備投資・研究開発そして賃上げの原資として適切に投資されてきたのか、不断の検証と改革も求められる。**

# (参考) 再生医療・遺伝子治療分野における各省の役割分担

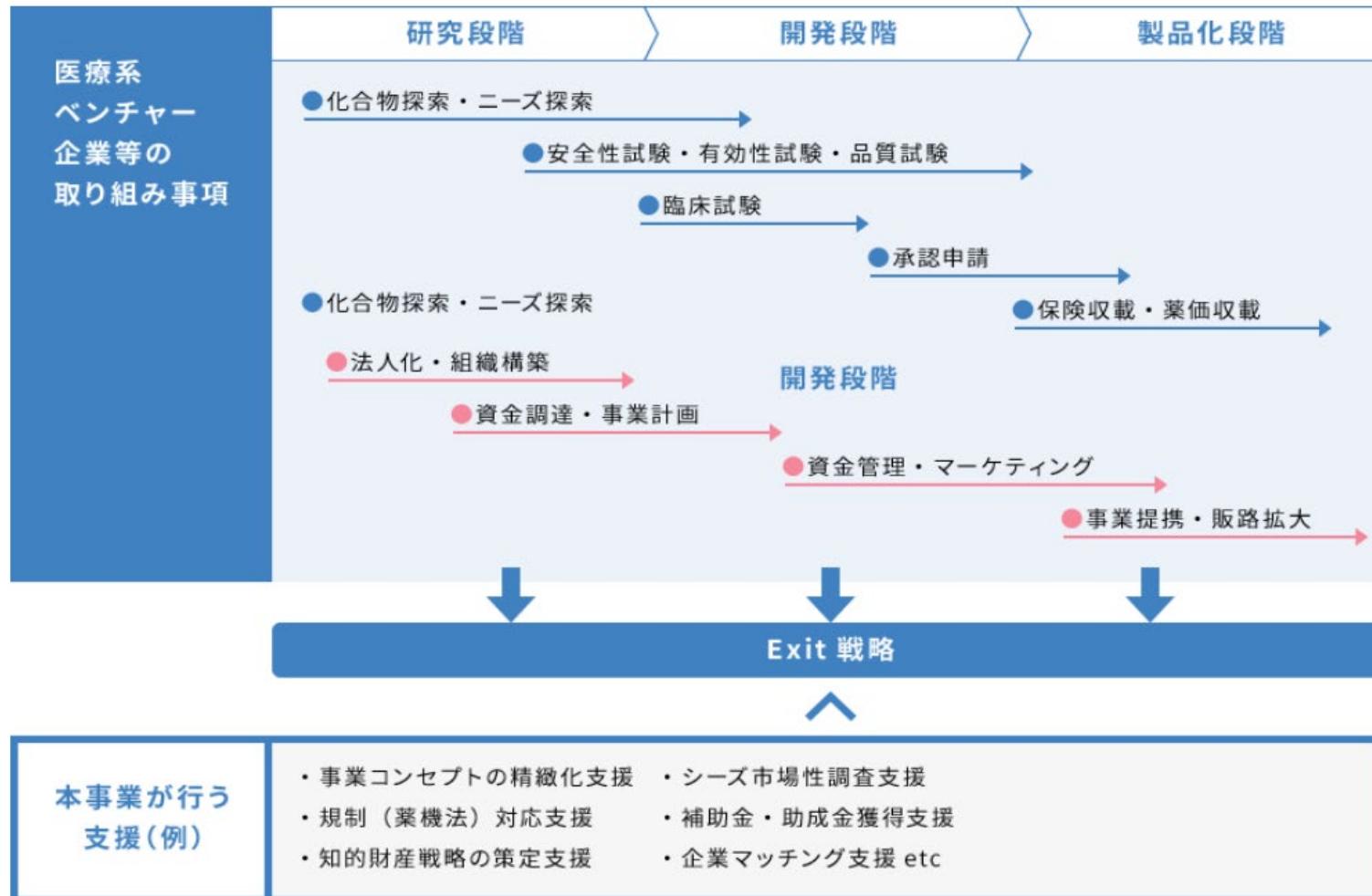


# (参考) MEDISO (厚生労働省事業)

医薬品・医療機器・再生医療等製品、新たな創薬技術や医療用マテリアル等の実用化を目指している個人を含めたベンチャー、アカデミア等をご支援致します。



ご相談者の相談希望内容に応じて、適切なサポーターや厚生労働省を含めた関係機関と連携してご支援致します。



# 日本成長戦略本部における検討課題

●令和7年11月4日、第1回日本成長戦略本部での総理発言



「この内閣は、今の暮らしや未来への不安を希望に変えるためにも、『強い経済』を作りまいります。(略)

成長戦略の肝は、『危機管理投資』です。リスクや社会課題に対して、先手を打って供給力を抜本的に強化するために、官民連携の戦略的投資を促進します。世界共通の課題解決に資する製品、サービス及びインフラを提供することにより、更なる我が国経済の成長を目指します。

**本日、この本部におきまして、各戦略分野の担当大臣を指名しました。**関係大臣、大変だとは思いますが、これに協力して取り組むようお願いをいたします。

**各戦略分野の供給力強化策として、複数年度にわたる予算措置のコミットメントなど、投資の予見可能性向上につながる措置を検討してください。**研究開発、事業化、事業拡大、販路開拓、海外展開といった事業フェーズを念頭に、防衛調達など官公庁による調達や規制改革など新たな需要の創出や拡大策を取り入れてください。

これらの措置を通じて実現される、**投資内容やその時期、目標額などを含めた『官民投資ロードマップ』を策定してください。**その中で、**成長率など国富拡大に与えるインパクトについても定量的な見込みを示してください。**技術、人材育成、スタートアップ、金融など、分野横断的な課題についても、担当大臣を指名しました。各担当大臣は、それぞれ解決のための戦略を策定してください。

**来年の夏、これらを取りまとめた成長戦略を策定いたします。**城内日本成長戦略担当大臣の下、内閣一丸となって、精力的に検討を進めてください。

城内大臣は、本日、設置を決定した『日本成長戦略会議』を早急に開催し、そこで、経済対策に盛り込むべき重点事項を取りまとめてください。これは急ぎです。以上です。」

17の戦略分野	担当大臣
A I・半導体	内閣府特命担当大臣（人工智能戦略）/経済産業大臣
造船	国土交通大臣 内閣府特命担当大臣（経済安全保障）
量子	内閣府特命担当大臣（科学技術政策）
合成生物学・バイオ	経済産業大臣
航空・宇宙	内閣府特命担当大臣（経済安全保障）
デジタル・サイバーセキュリティ	経済産業大臣 デジタル大臣
コンテンツ	内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略）
フードテック	農林水産大臣
資源・エネルギー安全保障・GX	経済産業大臣
防災・国土強靭化	国土強靭化担当大臣
創薬・先端医療	内閣府特命担当大臣（科学技術政策）/デジタル大臣
フュージョンエネルギー	内閣府特命担当大臣（科学技術政策）
マテリアル（重要鉱物・部素材）	経済産業大臣
港湾ロジスティクス	国土交通大臣
防衛産業	経済産業大臣/防衛大臣
情報通信	総務大臣
海洋	内閣府特命担当大臣（海洋対策）